

(2)砂原地域

指定基準	講 評	該当状況
イ.当該地域マリンビジョンが、地域のポテンシャルを活かすとともに個性ある計画となっていること。	砂原地域は「水産物の食育をサポートする港・砂原づくり」をキャッチフレーズとして、食育に注目して地元水産物を積極的にサポートすることで地域のブランド力を高めていく取組みや、地元水産加工品を付加価値の高い高次加工品へと展開する取組み等が計画されており、地域にとって価値あるビジョンとなっている。	
ロ.当該地域マリンビジョンが、独創性、先駆性、広域性のいずれかが認められるとともに、他地域モデルとして見込め、北海道マリンビジョン 21 の具現化に資する計画となっていること。	水産加工業の高次化シフト、食育と砂原水産物の PR を結びつけた着眼点には独創性があるものの、水産加工業の高次化シフトの具体化に課題が残るとともに、食育についても特色ある取組みは見受けられない。 今後、特に、水産加工業の高次化についての具体的な取組みや市町村合併を契機とした水産加工業等の多様性の発揮を期待したい。	
ハ.当該地域マリンビジョンが、地域協議会の十分な議論・調整を踏まえた計画であること。また、地域マリンビジョン策定後であっても、適宜地域協議会において当該地域マリンビジョンの円滑な推進を図る計画となっていること。	農業関係者の協議会への参加や重点プロジェクトに対応してワーキンググループの立ち上げ等、多様な参加者による議論がなされた計画であると評価できる。また、広報活動が積極的に実施されており、地域の合意形成を意識したビジョンを推進する環境づくりも評価できる。	
ニ.当該地域マリンビジョンに位置付けられている拠点漁港が、北海道マリンビジョン 21 の趣旨に鑑み、計画において拠点漁港のいずれかに該当すること。	拠点となる砂原漁港においては、水産物のストック機能の向上を図るための蓄養水面の整備が計画されており、水面を活用したナマコの試験的な中間育成等、基盤整備の効果発現に向けた取組みも開始されている。今後とも、蓄養水面の利用に係る取組みが継続されれば、漁港の効用の最大限発揮が見込まれる。	
ホ.地域マリンビジョンの実現に向けた取組み内容が各実行主体ごとに明確になっているほか、それらの取組みが地域において継続的に行われる等、地域マリンビジョン及び取組み主体の熟度が認められること。	主要な取組ごとにワーキンググループが編成され、実現に向けた具体的な検討が行われており、ビジョンの熟度は認められる。 今後、ワーキンググループ等による検討を重ね、より具体的な取組みが展開されることを期待する。特に、水産加工業の高次化シフトについては、旧森町の加工会社も含めた検討を進め、早期の具体化を期待する。	